

【事例紹介】

東京大学スリランカ事務所の設立と主要な活動について

The University of Tokyo Sri Lanka Office: Landmark Activities of Founding Year, 2020

東京大学スリランカ事務所長（コロombo大学経営学部教授）ハッテゲ・ドン・カルナラトネ

H.D. Karunaratne

(Director, The University of Tokyo Sri Lanka Office/
Senior Professor, Faculty of Management and Finance, University of Colombo)

Senior Professor, Faculty of Management and Finance, University of Colombo)

キーワード：グローバル人材、留学政策、スリランカ、高等教育

スリランカ学生に日本留学による新たな高等教育の道を拓くため、東京大学はコロomboにスリランカ事務所を開設し、2020年1月16日、開所式を開催しました。開所式には、杉山明在スリランカ日本大使館特命全権大使ご臨席のもと、東京大学大学執行役・副学長相原博昭教授、東京大学副学長関村直人教授、スリランカ高等教育省 Anura Dissanayake 次官、スリランカ大学助成委員会（University Grants Commission-UGC）委員長 Sampath Amaratunge 教授が参席されました。（写真1）



コロombo大学経営学部経営経済学 Chair Professor である筆者が東京大学スリランカ事務所（以下 UTSL）所長に就任し、事務所スタッフには ICT が専門の Mr. Sachith Perera、日本語が専門の Ms. Shirani Kolambage が勤務することになりました。筆者はスリランカ日本留学生同窓会（JAGAAS）会長を長く務めています。（写真2）



杉山大使は東京大学が主導するこの取り組みを心から歓迎して、「東京大学がインドに続いて二番目の事務所をスリランカに開設したことは、両国間で教育分野に大きな可能性があることを示しており、次の4年間に海外拠点配置地域から日本の高等教育機関への外国人留学生数を1.5倍に増加させる目標を達成する新たな可能性を開くものである」と述べられました。杉山大使は、スリランカと日本が共通する多くの価値の中で、国や個人の特質を発達させるうえで教育が最重要であるとの伝統が根をおろしていることに触れ、「日本のトップ大学のプレゼンスが、最も聡明な人々の日本への留学を促し、そのような伝統的な価値をさらに強めるきっかけとなることを願っています」と結ばれました。

さてここで、2020年1月16日に発足しましたUTSLについて、2020年の活動を振り返ってみます。1月17、18、19日にコロンボの中心にあるバンダラナイケ記念国際会議場（BMICH）で開催された国際教育展 EDEX Expo に、JASSO や他大学とともに「JAPAN Expo」として参加し、UTSLのブースには他大学の資料も配架して日本留学を広報しました。東京大学職員の森和博、佐野雅子、木部光世、兼松珠樹が参加しました。スリランカでは最も良く知られた教育展で、連日約400名の学生が、日本の大学や高等教育の機会の情報を得るためにUTSLの展示ブースを訪れました。（写真3）



1月17日には日本学生支援機構（JASSO）留学生事業部の鈴木美智子氏がコロンボのUTSLに来られ、日本にいる留学生の状況やスリランカから日本への留学生の拡大の可能性について懇談しました。（写真4）



UTSL は日本留学に関わるステークホルダー会議を「留学コーディネーター会議」として設立し、3回開催しました。メンバーは在スリランカ日本大使館の川上貴之一等書記官、JICA スリランカ事務所代表、東京大学スリランカ同窓会会長でルフナ大学 Senior Lecturer の Dr. Indika Palihakkara、前スリランカ警察監察官で前スリランカ日本留学生同窓会（JAGAAS）会長の Mr. Chandra Fernando、元 JAGAAS 会長の Mr. Merrick Gooneratne、スリランカ日本語教師協会アドバイザーの Mr. Dayasiri Warnakolasuriya、ケラニヤ大学日本語センターディレクターの Dr. Dilrukshi Rathnayaka、サバラガムワ大学日本語学科 Senior Lecturer の Ms. Januka Mohotti です。

これら著名なステークホルダーから示されたアイディアはUTSLが本年の活動を企画し実行する上でとても役に立ちました。（写真5）



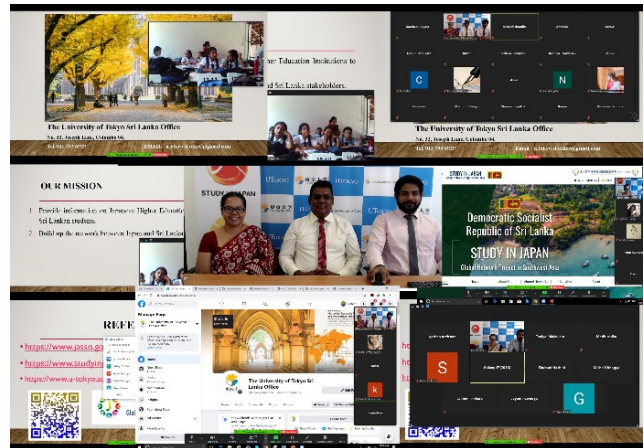
スリランカの教育専門家や国立学校の日本語教師とのステークホルダー会議を通して、UTSL はスリランカの学生を以下の六つのグループに分けて、日本留学に関する情報提供をする「アウェアネス・セッション」を行うことにしました。

- (1) スリランカの全国統一大学入試試験 GCE-A レベル（General Certificate of Education-Advanced Level）で日本語を学習している学生
- (2) GCE-A レベル試験の数学を履修している学生
- (3) GCE-A レベル試験のサイエンスを履修している学生
- (4) GCE-A レベル試験科目の農業を選択した学生
- (5) GCE 試験の科目で情報通信技術（ICT）を履修している学生
- (6) 10 年の課程を終え高校入学や高等教育の機会を求めて GCE-O レベル（General Certificate of

Education-Ordinary Level) 試験の準備をしている学生

UTSLはコロンボ市やスリランカ各地域のトップランクの高校の教員や校長と連絡をとり、以下の通り、12の対面式のインタラクティブなアウェアネス・セッションを成功裡に実施しました。

(Vidyalaya はシンハラ語で「学校」を意味します。)(写真6)



(地区) コロンボ : (学校名) Royal College, Vishaka Vidyalaya, D. S. Senanayake College, Gothami Balika Vidyalaya、バランゴダ : Kolonnawa Balika Vidyalaya, Kuliypitiya Saranath College, Kuliypitiya Vishakha Girls College, Biyagama Central College, St Agnes Girls School, Buddahjyanthi Central College, Vidyaloka Central College、ワッターガンパハ : Karunaratne Buddhist College

対面式セッションに加えて、Zoomウェビナー方式により、2020年に12のアウェアネス・セッションを実施し、以下の学校の学生と教員・校長が参加しました。(写真7)



コロンボ : Asoka Vidyalaya、ラトゥナプラ : Ferguson High School, Sumana Balika Vidyalaya、ガンパハ : Ratnaveli Balika Vidyalaya, Yasodara Devi Balika Maha Vidyalaya
バランゴダ : Buddajyanthi Central College, St. Agnes Girls College、ニッタンプワーガンパハ : Sri Sangabodhi Jathika Vidyalaya、マータラ : Sujatha Vidyalaya、キャンディ : Pushpadna Girls' College、ゴール : Mahinda College、ニゴンボ : Newstead Girls College

学校をベースとしたアウェアネス・セッションは三つのステップで企画・実施しました。

(1) 最初に日本の大学の高等教育プログラムに入学することの重要性や、なぜ日本なのか説明

(2) 日本の大学の入学資格・方法について説明

(3) JASSO および各大学のウェブサイトにより、日本の大学の英語による学位プログラムの情報提供

アウェアネス・セッションの長さは質疑応答のセッションを含めて約2時間で、JASSO 本部や日本の各大学のパンフレット、ハンドブック、資料を学生に配布するとともに、一部資料は学校の図書館に置くため提供し喜ばれました。

UTSL は、日本とスリランカの大学間の連携を推進するためにスリランカの大学訪問を始めました。大学間のコラボレーションは、スリランカの学生の日本の大学院への進学を促進し、日本とスリランカの研究活動を強化するものと確信しています。2020年において5つの大学を訪問しました。

(1) 東京大学で日本留学海外拠点連携推進事業を担当する森和博職員、佐野雅子職員は筆者とともに、ケラニヤ大学日本語センターを訪問し、Dr. Dilrukshi Rathnayake、スタッフメンバー、日本語履修の学生と今後の協力について話し合いました。(写真8)



(2) 東京大学大学執行役・副学長の相原博昭教授、副学長の関村直人教授、筆者はコロンボ大学を訪問し、コロンボ大学 Vice Chancellor (学長) の Chandrika N Wijeratne 教授と懇談しました。東京大学はアジア大学連盟 (AUA : Asian University Alliance) の有力メンバーであり、スリランカからはコロンボ大学が参加しています。(写真9)



- (3) UTSL はコロンボから 100 km 離れているワヤンバ大学の教員・学生とアウェアネス・セッションを成功裡に開催しました。Vice Chancellor の Piyal Ekanayak 教授も参加しました。(写真 10)



- (4) ラトゥナプラ地区ベリハロヤにあるスリランカ・サバラガムワ大学 (SUSL) はコロンボから 160km 離れたところにあります。日本語教育で有名で、日本の大学院教育を終えた教員が数名います。UTSL はこれらの教員との関係を発展させてアウェアネス・セッションを行いました。SUSL でのアウェアネス・セッションには 200 名が参加し、日本の大学を卒業した教員、日本語関連の教員、日本語学位プログラム専攻の学生が参加し、インタラクティブな議論となりました。(写真 11)



- (5) 7 月 23 日、スリジャヤワルダナプラ大学人文社会科学部の役員会議室において、日本での研究と大学院の奨学金の機会についてのインタラクティブなセッションを開催しました。このセッションは、日本の各大学や、世界をリードする東京大学が提供する奨学金プログラムを利用して、主に若手スタッフに日本の研究と大学院の奨学金の申請を促すことに焦点をあてました。本セッションは筆者によって行われ、人文社会科学部長である Shirantha Heenkenda 教授のガイダンスがありました。学部の若手スタッフが積極的に参加し、研究活動および大学院教育についての知識を高める機会となりました。(写真 12)



UTSL は在スリランカ日本大使館と連携して、筆者が森和博職員とともに、日本大使館の川上貴之一等書記官が主催する日本教育セミナーに参加しました。さらに2020年10月8日、コロンボのガラダリホテルで開催された、在スリランカ日本大使館主催の「Quality Infrastructure Seminar」において、UTSL を代表して、筆者が、「What matters for quality infrastructure in Sri Lanka and Japan」と題してプレゼンテーションを行いました。また最近では、コロンボにある JICA スリランカ事務所の幹部が UTSL オフィスに来られ、スリランカの大学における JICA 主催のプログラムについて話し合いが持たれました。(写真13)



このように、2020年、UTSL はスリランカの人たちへの日本の大学の情報共有のセンターとして、またスリランカの日本関連機関へのサービスセンターとして活動してきました。日本とスリランカの教育における関係のさらなる発展のため取り組んでまいります。